発表　６－１

不登校傾向にある児童に対する支援の工夫

－情報共有ファイルを活用した連携を通して－

長期研修生　**西　山　真奈美**

１　研究の目的

文部科学省の調査によると、令和元年度の不登校児童数は前年度より19％増加し、不登校は小学校が抱える喫緊の課題の一つである。これまで、不登校傾向にあって、保健室で過ごすことが多くなった児童に対し、養護教諭の立場から学級担任と保護者をつなぎ、共通理解を図ってきたが、その手段のほとんどが口頭による情報共有であったため、支援の方向性にずれが生じる等、連携の不十分さを感じていた。そこで、不登校傾向にある児童（以下、「対象児童」という。）の支援目標や、学級担任、養護教諭、保護者（以下、「支援者」という。）の役割を明確にし、対象児童への支援や日々の様子について、情報を共有するツールを活用して連携すれば、確かな共通理解に基づいて、個々の児童に応じた効果的な支援につながるのではないかと考え、本研究に取り組むこととした。

２　研究の内容

⑴　文献等による研究

不登校の行動アセスメントとは､不登校状態を形成し､それを維持している条件を明らかにし、再登校行動のシェーピングに当たって必要とされる情報を収集することである（小林、1988)。

子ども参加型援助チームは、教師、保護者、コーディネーター等で結成する援助チームに、当事者である子どもが直接的、間接的に参加する形態である。

⑵　実態把握

研究協力校の対象児童２名と支援者に聞き取り調査を行い、不登校の行動アセスメントから情報を統合し、支援の検討を行った。支援者に対して連携に関する意識調査を行ったところ、支援者間で情報交換をしながら支援が進められていたが、それぞれに大変さを抱えていた。

⑶　各シートと情報共有ファイルの作成

子ども参加型援助チームで支援を進めることとし、３種類のシートを作成した。「支援計画シート」は、対象児童の支援目標や支援者の役割を明確にできるように作成した。なお、短期目標は長期目標にスモールステップで近づけていく。（以下、短期目標を「ステップ」という。）「ステップアップシート」は、支援計画シートの内容を対象児童にも分かりやすく反映できるように、「活動記録シート」は、対象児童の１日の様子の記録と、支援者間の情報共有のために作成した。情報共有ファイルは、ステップアップシートと活動記録シートで構成し、ステップの達成状況や日々のできたことがファイル内に蓄積されていくようにした。

⑷　実践活動

事前打合せでは、支援計画シートを用いて対象児童の支援目標と支援者の役割を設定した。その上で、日常の情報共有のツールとして情報共有ファイルを活用し、日々の生活の中で対象児童のできたことや良かったことを本人と支援者で確認しながら支援を進めた。定期的な検討会においては、情報共有ファイルの記録を基に、支援者でステップとそれぞれの役割について評価を行い、対象児童の考えを反映させながら、次のステップと支援者の役割を設定した。

⑸　実践の検証

ア　児童の変容について

低学年対象児童は、ステップを達成するごとに学校生活への適応力が向上し、長期目標を達成した。高学年対象児童は、ステップの達成に向けて主体的に取り組み、出席率が向上した。

イ　支援者間の連携について

意識調査等の結果から、支援者は確かな共通理解に基づいて支援を行うことができたことが読み取れた。また、活動記録シートの活用は、支援者間の連携を充実させ、対象児童と支援者及び支援者間のよりよい人間関係づくりに有効であったことが分かった。

ウ　情報共有ファイルについて

アンケート調査から、情報共有ファイルは共通の目標に向かって支援を行う点や連携の意識を高める点において有効であった。一方で、情報共有ファイルの活用の仕方や支援者の負担の軽減については配慮しながら支援を進めていく必要があると考える。

３　研究のまとめ

対象児童の支援目標や支援者の役割を明確にし、日常の情報共有のツールとして情報共有ファイルを活用したことで、支援者は対象児童の理解を深めながら、連携を充実させて支援を進めることができた。その結果、対象児童の不登校傾向の改善や学校生活への適応力の向上につながった。今後は、よりよい情報共有ファイルの活用の仕方や、継続した支援の在り方について検討していきたい。